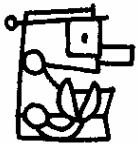


小 / 理科 / 6年 / 生物と環境 /
人と動物の体 / 理解シート

いえき

胃液や腸液は、どんなはたらきをするの



胃液や腸液は、食物を、体内に^{きゅうしゅう}吸収されやすい養分の形にする、消化のはたらきをしているのさ。

だ液は、デンプンを消化する

食物の栄養を分類すると、デンプン、タンパク質、しぼうの3つになります。食物は、口から入って、食道、胃、小腸を通る間に、どろどろに分解され、体に吸収されやすい養分に変えられます。これを消化といい、口のだ液、胃の胃液、小腸で出る腸液などは、食物を消化するはたらきがあり、消化液とよばれます。

うすいデンプンのりなどは、だ液とまぜておいておくだけで、ヨウ素液で確かめると、デンプンではないものに変化していることがわかります。

胃液は食物をとかし、タンパク質を消化する

気分が悪くなったときすっぱいものが口に上がってくるのが、胃液で、強い酸です。酸の力で、たいていのものをとかしてどろどろにしまいます。また、胃液には、タンパク質をおおざっぱに分解するはたらきがあります。

胃と小腸の間にある十二指腸というところでは、すい^{そう}臓からすい液という消化液が出て、タンパク質やデンプンを分解し、しぼうをしぼう酸とグリセリンというものに変えます。

腸液で完全に消化されると、小腸で栄養分として吸収される

小腸では、すい液などで完全に分解されなかったデンプンやタンパク質が、腸液でさらに細かく分解され、ブドウ糖やアミノ酸にまで変化します。ブドウ糖やアミノ酸、しぼう酸などの養分になると、小腸のかべを通して、血液中に吸収され、かん臓や体の必要な部分に運ばれるようになります。